

## はじめに

平成30年度全国農業高等学校長協会東北支部総会並びに研究協議会、第57回東北地区高等学校農業教育研究大会、第16回全国高等学校農場協会東北支部大会が8月16日・17日の両日、福島県福島市の「コラッセふくしま」を会場に開催されました。東北各県から170名余りのご参加をいただき、メインテーマ「生徒の『生きる力』を育む活力ある農業教育の創造と実践」の元、研究協議、情報交換が行われ、成功裏に大会を終了することができました。これも偏に、ご参会に皆様をはじめ、文部科学省教科調査官田畑淳一様、全国農業高等学校長協会理事長福島実様、全国高等学校農場協会会長齋藤義弘様、さらに、福島県教育委員会や関係各位の皆様のご理解とご協力、ご指導の賜と心から厚く御礼申し上げます。まことにありがとうございました。

今回の大会は、これまで個別に開催していた東北地区高等学校農業教育研究大会と全国農業高等学校長協会東北支部総会の合同となり、新たなスタイルでの実施となりました。分科会編成では、時間や会場さらに指導助言者等の関係により、東北農研大会の分科会編成を前年度までの4分科会から1減し3分科会とし、従来の「農業教育課題」の分科会の内容を「教科指導」、「農業教育の充実・振興」、「学校農場運営」の分科会の中で研究協議していただくこととしました。当初、協議や情報交換の深まりについて心配いたしましたが、発表者の日頃の教育実践による丁寧でわかり易いプレゼンテーションや資料、助言者の豊富な識見に基づいた貴重なご指導、さらに運営に当たっていただいた座長、記録の先生方の細やかなご配慮によって、コンパクトであっても有意義な大会になったと感じております。

平成30年度、教育界においては、新学習指導要領の告示や高大接続改革、働き方改革等、今後の高等学校教育を考えるうえで極めて重要な一年であったと考えます。さらに、全国的な猛暑や西日本豪雨、北海道胆振東部地震等、甚大な自然災害により環境や農業、食料に関心が高まる中において、今後の農業教育はどうあるべきかを問い直される1年でもあったと思います。東北各県において急激な少子化に伴い県立学校改革が進行される中であって、特色ある学校づくり、特色ある農業教育を検討する上での道標の一つとして本大会の研究成果が活用されることを期待しております。

結びに、本大会の準備・運営、そして研究収録のとりまとめにあたられました事務局校の会津農林高等学校の教職員の方々、ご支援、ご協力をいただきました関係の皆様方に衷心より御礼申し上げます。

福島県高等学校教育研究会農業部会長

福島県高等学校長協会農業部会長

福島県立福島明成高等学校長

大会会長 大和田 範雄